

答

国において抗原検査は、学校内での感染拡大を未然に防ぐことを目的としており、事前に児童・生徒や保護者へ検査についてじゅうぶんな説明を行った上で、保護者の同意を得る必要があります。最終的には校長の判断で実施することとなる。

また、検査に当たっては、医療機関と連携して医師による診療が可能な体制を構築し、検査に関する研修を受講した教職員立ち会いの下で、鼻腔検体を児童・生徒がみずから採取することとなっている。

なお検査キット配布による混乱回避のため、手引きなどを配布し、教職員の共通理解を深めるようにした。

検査の課題としては、児童・生徒がみずから検体を採取するため、正確に採取できない可能性があることや、児童・生徒が保健室に在室している場合も考慮し、他に検査場所を確保しておく必要があることなどを想定している。

今後、緊急に検査をする事態が生じた場合は、じゅうぶんな安全に留意し、学校医と連携しながら適切に対応したい。

塩崎雄大議員



- (一般質問)
- 1 コロナ禍における児童・生徒の健康について
 - 2 中学校の部活動について

部活動における

学校間連携の推進を！

問

全国的には、中学校の運動部活動において部員が減少し、活動できない部員が増加傾向にあり、本市においても例外ではない。部員不足のため、2校以上が協力して合同チームを結成し、大会に出場している事例もあるが、中学校部活動における合同チームの現状はどうなっているのか。

また、他自治体では、新しい部活動の在り方として、学校間連携方式を導入しているところがある。これは、自分

の学校に希望する運動部がない場合には、隣接する学校の部活動への参加を可能にするもので、できるだけ生徒が希望する種目の部活動に参加することができるとなっているが、学校間連携の導入について、どのように考えているのか。

更に、外部指導員を積極的に採用することは、専門指導者の不足や、教職員の働き方改革の推進にもつながると考えるが、どのように考えているのか。

答

中学校の部活動では、生徒数の減少により合同チームが増加し、令和3年度本市中学校総合体育大会の合同チーム数は、野球3、サッカー2、ソフトボール3、男子バスケットボール1、女子バレーボール1である。合同チームは、部員が少数で単独チーム編成ができない場合の救済措置とされており、愛媛県中学校体育連盟の合同チーム編成の規定では、サッカーなど個人の部を持たない団体競技において編成することができ。



外部指導員の指導を受ける東予東中学校サッカー部

本市では、県中学校体育連盟の規定に準じ合同チームを編成しているが、中学校に入學し、できるだけ自分のやりたい競技ができるよう、可能であれば学校間連携も考えていきたい。

本市の外部指導員については、各学校の校長が認めた16名のかたが登録されている。しかし、まだ人数は少ないため、専門的な技術の指導が難しい教員のサポートをする上でも、地域の有識者と教員が連携して、部活動の活性化につなげることができるよう努めたい。

西条みらいクラブ

真鍋頭伸議員



- (一般質問)
- 1 新型コロナウイルス感染症対策について
 - 2 一般廃棄物処理基本計画について

本市独自の対策内容は？

問

感染症対策については、国などがさまざまな対策を実施しており、市民の関心も高いが、本市独自の感染症対策の内容と効果はどのようになっているのか。

また、財政状況が厳しい中、感染症対策関連のこれまでの支出額はどの程度か。

更に、今後の財源確保についてはどのように考えているのか。